

令和5年度生徒指導重点指定校 報告書 五日市観音中学校

1 学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

予防的な生徒指導の推進と授業環境の改善

2 重点目標

- ①自己肯定感、学校への肯定感を高め支持的風土を高める取り組み。
- ②ルールメイキング（校則見直し）会議を中心とした「生徒が主役」の学校づくり。
- ③指導と支援の一体化を目指した校内体制作り。

3 具体的な取組

※1の課題解決に向け、具体的に取り組む項目

ア 生徒指導の実践・評価サイクル

- ①五観中相談リレー（担任・教科担→学年主任→生徒指導主事→管理職）の周知。
一人で抱え込まない生徒指導ができ、報告をリレーすることで多様な考えのもと、生徒、保護者に寄り添いながらも毅然とした対応ができた。今年度は、その後の様子を保護者に連絡することでさらに信頼関係を深めた例もあった。
- ②毎月の生活目標アンケートを生かした肯定的評価と予防的生徒指導の実践。
アンケート結果を集約、校内掲示することで日ごろの生徒の頑張りを肯定的に評価することができた。また、毎月のアンケートで「学校生活に不安なこと、心配なこと」を聞くことで、いじめなどの問題行動を未然に防ぐことができた。
- ③問題行動記録の入力の徹底。
担任、学年主任、生徒指導主事を中心に記録を文書で残すことができた。それを生徒指導連絡会で情報共有し、きめ細やかな指導につながった。
- ④生徒指導支援員との連携。
生徒指導支援員が授業中、休憩中に廊下で見守っていることで、生徒の小さな変化にも気づき情報提供をしてもらい問題行動やいじめの早期発見にもつながった。
- ⑤地域からの嬉しいニュースの表彰。
地域からお褒めの言葉があった場合は、部活動の表彰と同じように全校集会で賞状を渡し表彰を行った。

イ いじめ・不登校等予防的生徒指導の実施

- ①年3回各学年いじめに特化した道徳の実践を行った。また、ソーシャルスキルトレーニングとして「アサーショントレーニング」を年3回実践した。
- ②いじめアンケートを年3回生徒・保護者対象に家へ持ち帰る方法で行った。対応も迅速に行い、いじめ防止委員会で認知し、3か月の解消確認まで組織的に行った。
- ③年3回の教育相談を行った。1回目は担任、2回目は学年教員、3回目は全教員で行い、なるべく多くの教員が一人の生徒に接する機会をもうけ、他学年の教員も関わることであらゆる方面から生徒の支援を行った。
- ④年2回のアセスを実施した。
数値が心配な生徒に関しては、教育相談支援主任が抽出し担任、学年教員に共有し日ごろの見守りに活用した。

ウ 開かれた学校づくりの推進**①不登校生徒へのオンライン授業**

不登校生徒への支援として、五日市中学校と連携しながらオンライン授業を行った。持続的に参加する生徒もあり、教室で授業が受けられない生徒の貴重な学習支援となった。参加者が少なく、分析、検証が必要だが大きな第一歩を踏み出したと感じている。

②ホームページの更新

行事を中心に生徒の生き生きとした表情や前向きに頑張っている姿を発信した。授業の落ち着いた雰囲気や、グループ学習の関わり方などを紹介することで授業改善へつながった。

③学校だよりを各町内会へ配布

地域へ学校の行事や取り組みを発信し、生徒が頑張っている姿や成長する様子を紹介できた。

④行事の写真を学区内小学校掲示

校長作成の行事の写真を学区内小学校に配布し、小学生にも中学校の活動を紹介した。

エ 組織的な生徒指導体制を構築するために必要な校内研修会の実施**①いじめの感度を高める研修**

年度始めに、全教職員でいじめハンドブックを使いながら、いじめの認知、対応などの意識統一を図った。

②校則見直し、教育相談研修

夏休みの研修で「アセスの見取り」について情報共有し、また改訂された生徒指導提要に触れながら校則見直しが進む中で指導の基準をそろえるための教員間のディスカッションを行った。

③現状の課題を生徒と教員で考え見直す呼びかけ

学校で起こる様々な問題に対して、担任がクラスで呼びかけたり、生徒指導主事が全校集会や全校放送でなげかけたりすることで、なるべく生徒の力で課題解決できるよう促した。今年度は「タブレット使用」「特別支援学級の生徒への言葉」などを指導した。

4 月別実施内容

月	取り組み
毎週	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導連絡会 ○不登校対策委員会 ○いじめ防止対策推進委員会（隔週） ○小中連携生徒指導主事会議（情報交換、小学6年生の授業観察） ○授業改善校内巡回
毎月	<ul style="list-style-type: none"> ○生活目標アンケート ○佐伯区内5校生徒指導連絡会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○指導方針、生徒指導体制、授業規律、生徒指導規定の研修 ○配慮を要する生徒についての研修 ○いじめの認知研修 ○犯罪防止教室（SNSのリスクについて） ○ルールメイキング（校則見直し）会議
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭訪問（1年生中心に）
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○アセス ○いじめアンケート調査 ○教育相談 ○ルールメイキング（校則見直し）会議
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○ハイリスク・要配慮生徒への対応
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修（保護者対応、教育相談）
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケート調査 ○ルールメイキング（校則見直し）会議
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○アセス
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談
12月	<ul style="list-style-type: none"> ○ハイリスク・要配慮生徒への対応。 ○薬物乱用防止教室
1月	<ul style="list-style-type: none"> ○いじめアンケート調査
2月	<ul style="list-style-type: none"> ○教育相談 ○ルールメイキング（校則見直し）会議
3月	<ul style="list-style-type: none"> ○新入生小中連絡会 ○ハイリスク・要配慮生徒への対応

5 成果

①基本的生活習慣の向上

「2分前着ベル」を合言葉に、生徒と教員共に取り組んだ結果、全学年2分前着ベルが浸透し来年度はさらに落ち着いた雰囲気での日々の授業が期待される。「あいさつ」、「無言清掃」、「身だしなみ」についてなども年々向上し、学校全体として基本的な生活習慣が身に着き始めた。このことから問題行動が減少し一定の落ち着きを見せている。

②ルールメイキング会議



- ・「自分たちで作ったルールは自分たちで守る」という風土が広がりつつある。
- ・生徒たちの「生活のしづらさ」に耳を傾けることができ、今まで生徒が抱えていた校則に対する不信感や違和感の解消につながった。
- ・校則に対する保護者のクレーム対応にも根拠をもって説明できた。
- ・生徒が声をあげ、校則が変わることで学校生活への主人公意識向上につながった。

③積極的ないじめ認知。見逃しゼロ。

これまでの本校の取り組みや、年度始めの研修において意識統一ができており、いじめ防止委員会でも積極的な認知を行った。1月末現在約80件のいじめを認知したが、重大事態に至っていない。教育相談やいじめアンケート、日ごろの見守りにおいて早期発見、早期解決に努めた。

6 次年度への課題

- ①授業環境の改善。
- ②自分たちで作ったルールはみんなで守る意識の向上。
- ③細やかな保護者連携。
- ④毅然とした指導。個別の支援、指導。

7 今後の取組

- ①授業のスタンダードを周知、評価、修正する。
- ②ルールメイキング会議メンバーや生徒会執行部などのリーダーが中心となり現状の課題を発信し、生徒の力で改善できるような取り組みを行う。
- ③初動を大切にした保護者対応。
「授業道具が揃っていない。」「保健体育の見学の回数が増えている。」「最近授業中に伏せることが多い。」など学校の現状が保護者に伝わっていないケースがあった。担任と教科担任が連携し、細やかな保護者連絡が必要である。また、問題行動に対しての保護者連絡はなるべく第一報が教員から保護者へ行くように教員間で周知する。また、事後の対応で保護者との信頼関係を深めるための連絡を行う。
- ④毅然とした指導
いじめ、暴力、暴言に対して概ね組織的に対応できたことで、一定の落ち着きを見せている。それでも、まだまだルールを守れない規範意識の低い生徒が多いのも事実である。特定の生徒に関しては、しっかりと保護者とつながりながら毅然とした態度で指導することが必要である。みんなが安心して授業を受けられる学級づくり、校内体制を作っていく。